



資料館事業における シェアリングネイチャー活動の展開と参加者の反応の変化について

永末 透威

(本別町歴史民俗資料館 / 地域おこし協力隊)

はじめに

本別町歴史民俗資料館は、北海道十勝管内に位置する本別町の郷土資料館。今日までの本別のあゆみを自然的・歴史的資料とともに紹介している地域の「ふるさと学習」の場です。開拓の歴史や生活道具、アイヌ文化とのつながりを紹介する展示に加えて、軍馬補充部十勝支部に関する戦没軍馬遺産コーナーや馬術競技の金メダリスト西竹一の生涯をたどるバロン西コーナー、1945年7月15日の悲劇を伝える本別空襲の爪跡コーナーを常設し、地域の歴史を未来に伝え残しています。

当館は博物館類似施設として、博物館法に基づいた活動を展開しています。本発表は当館が令和6年4月から教育普及活動として展開している資料館講座「ほんべつ自然観察会」と資料館講座「ネイチャーゲームで自然体験」の事例報告です。座学ではなく、いずれも体験型の講座となっています。博物館等施設が提供するシェアリングネイチャー活動の事例として、事業をコーディネートした経緯や活動記録、継続的な参加者に見られた反応の変化について紹介します。

永末 透威(本別町歴史民俗資料館)

本別町歴史民俗資料館における資料館講座

ほんべつ自然観察会

対 象：高校生以上

場 所：神居山・弁慶洞遊歩道 / 勇足神社

時 間：90分～120分

・・・目的①・・・

地域の自然を知る

・・・目的②・・・

自然とのふれあいを
楽しむ

ネイチャーゲームで自然体験

対 象：小学生以上(保護者同伴の場合、未就学児も可)

場 所：本別公園 / 本別町図書館etc.

時 間：60分～90分

・・・目的③・・・

対人・対自然への
共感性を育む

・・・目的④・・・

心豊かな日常生活の
原動力にする

地域資源(自然)を生かしたシェアリングネイチャー活動を展開！！！！

事業企画の経緯

☆資料館が抱えていた課題☆

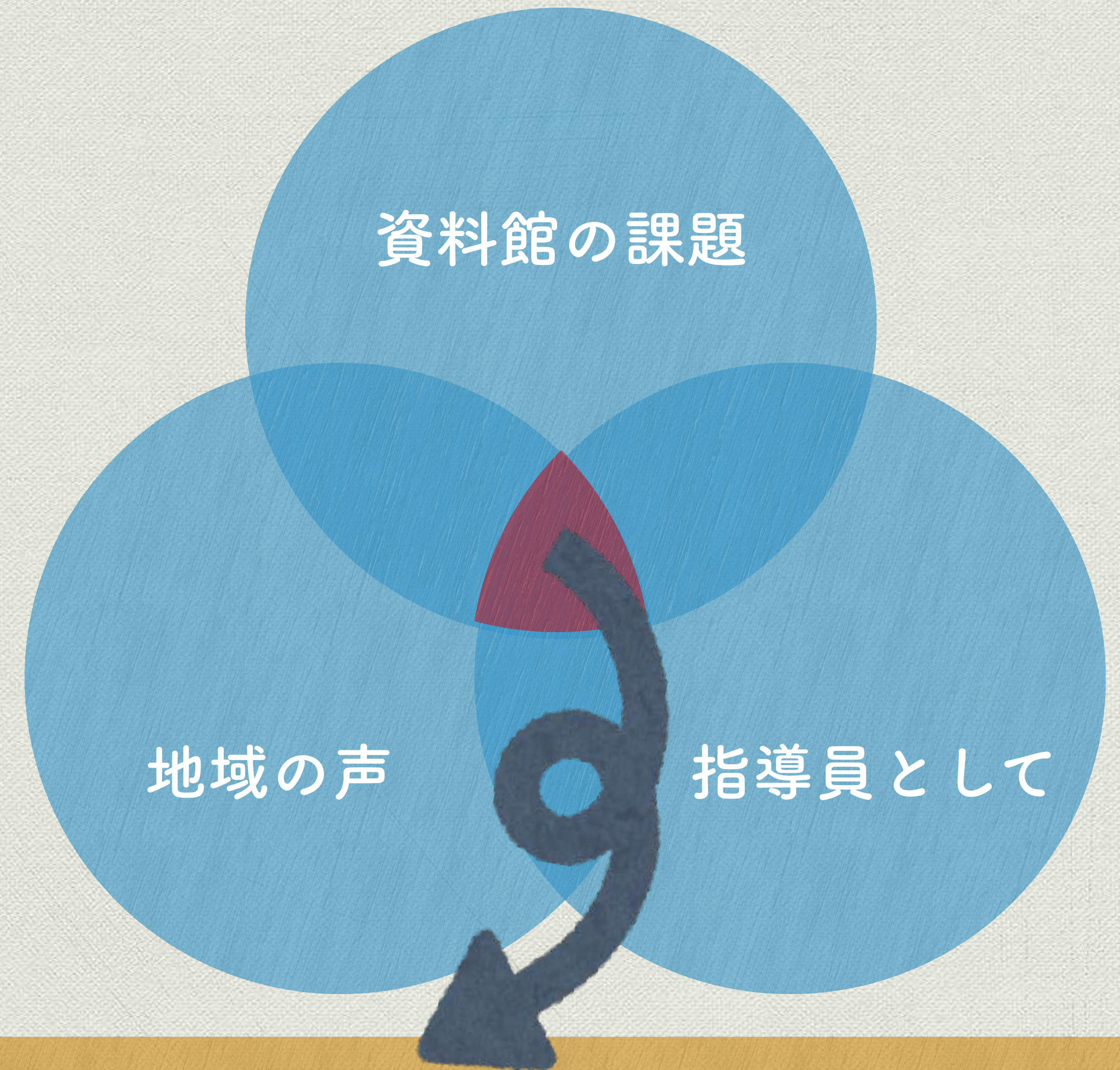
- ・展示活動以外(調査研究活動や講座・講演会等)を充実したいが、専門的人材が配置されていなかった。

☆地域住民の声☆

- ・豊かな自然を活用したイベントを企画してほしい。
- ・子どもに自然体験をさせたいけど、手法や声掛けがわからない。単独で林内に入るのは怖い。

☆ネイチャーゲームリーダー(個人)の見解☆

- ・ネイチャーゲームの普及と自身の指導員としてのスキルアップを兼ねて、実践経験を積みたい。



地域の声を反映しつつ、資料館事業の充実を図るため事業を企画した

活動記録 | ほんべつ自然観察会

4/27 第1回「エゾエンゴサクが春の訪れを告げる」：＜森の色あわせ＞＜音いくつ＞／10名

5/11 第2回「指折り数えるフデリンドウ」：＜フィールドビンゴ＞＜サイレントウォーク＞／5名

6/8 第3回「神居山へギンリョウソウ観察に行こう！」：＜はじめまして＞／10名

7/13 第4回「まちの文化財を知る～勇足神社のかしわ林～」：7名

9/7 第5回「にょきっ！キノコ探検隊」：7名

10/5 第6回「林業漫画家と秋の弁慶洞遊歩道を歩く」：10名

11/2 第7回「野生生物の落とし物を探そう！」：＜わたしの暦＞／9名

<サイレントウォーク>



<音いくつ>



<わたしの暦>



活動記録 | ネイチャーゲームで自然体験 (協力:本別ボランティアクラブかめ_6月以降)

4/27

vol.1 「数字のないビンゴ」

メイン：＜フィールドビンゴ＞／27名

5/18

vol.2 「ミクロな世界へGO！」

メイン：＜ミクロハイク＞／22名

6/22

vol.3 「木はともだち」

メイン：＜わたしの木＞／8名

7/27

vol.4 「トレジャーハント」

メイン：＜宝さがし＞／14名

8/17

vol.5 「いろいろな色さがし」

メイン：＜森の色あわせ＞／6名

9/21

vol.6 「落ち葉であ・そ・ぼ」

メイン：＜ジャンケン落ち葉集め＞／8名

10/19

vol.7 「わらしべウォーキング」

メイン：＜わらしべウォーク＞／4名

11/30

vol.8 「まねっこどうぶつ」

メイン：＜動物ジェスチャー＞／26名

12/14

vol.9 「テントウムシの不思議」

メイン：＜ペーパークラフト＞／12名

1/11

vol.10 「松ぼっくりと竹とんぼ」

メイン：昔あそび体験／10名



<フィールドビンゴ>



<カモフラージュ>



<マイクロハイク>

＜わたしの木＞



＜森の色あわせ＞



＜宝さがし＞





<色いくつ>



<わらしべウォーク>



<葉っぱコレクション>

参加者の反応の変化

BEFORE

- ・ 種名や希少性へのこだわり

(例) 「この名前は？」 「〇〇かな？△△かも！」
「この植物は本別でしか見られないの？」

- ・ 「観察」よりも「解説」を求める

(例) 様々な特徴を解説から知ろうという姿勢
解説の後に観察・体験する流れ

- ・ 受動的な行動

(例) 案内人が観察や体験を促した時だけ行動する
対象物だけを観察するため、視野が狭い

AFTER

- ☆より自発的な行動へ

(例) 常に何かを観察し、気づきを言語化する
早く観察や体験をしたいという熱意・眼差し

- ☆「観察・体験」ありきの「解説」へ

(例) 「ギザギザした葉だ！」 「鹿角みたいな枝だ！」
「あそこに野鳥がいる！頭のとっぺん赤いね。」

- ☆今後を楽しみにする声

(例) 「次はいつやるの？」 「石で遊びたい！」
「来年も見られるかな？」 「野鳥観察したい！」

様々な試行の経験が自然とふれあう行動を起こすハードルを徐々に下げる。
【ふれあう→気づく→わかちあう】流れが生まれ、さらなる循環を呼び起こす。

おまけ | 興味深い反応集

7/27 vol.4 「トレジャーハント」

<宝さがし>実践中のできごと・・・

セミの抜け殻を探している際、参加者の1人が偶然、トドマツの樹幹をとことこ歩いていたミヤマクワガタのメスを発見した。

子どもたちは優しく手に取り、みんなでじっくりと個体や生息場所を観察していた。

「持ち帰って飼育したい!」という声もあったが、子どもたち同士で話し合い、元の環境に戻してあげることになった。



対人・対自然を思いやる「やさしい心」が
自然体験を通して育まれている

成果と今後について

ネイチャーゲームを活用した資料館活動の基盤を構築できた。

- * 単発的な実施から定期的な実施へ移行。好評かつ事業として定着しつつある。
- * 博物館等施設や社会教育施設も実践の場になり得る。

運営協力団体の会員1名(高校3年生)がネイチャーゲームリーダーを取得した。

- * 事業の運営補助に携わり、ネイチャーゲームを知った者が、体験者から指導者へ。
- * 新たな指導者の誕生に寄与。

試験的な実施から継続的な実施に向けて

- * 「自然とのふれあいを楽しむ」スタイルは変えず、各回のプログラムを構成する。
- * 開催頻度の見直し(2つの事業を隔月で開催予定。)

地域内外からの打診的な声への対応

- * 自治会活動などで今後、自然とのふれあいを取り入れたいとの声が聞かれるようになった。
- * 資料館活動の枠にとらわれず、指導員個人として、あるいは地域の会として柔軟な対応を模索していけばと考えている。